

羅針盤			関係する 分野	方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評 価 項 目	具体的数値項目			自己 評価	外部アン ケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	①学校公開を年間4回実施し、来校者の90%以上が満足している。	教務企画	・学校公開日、こうよう祭、体育祭等を設定し、授業の様子や学習の成果を紹介する。 ・学校公開は、保護者向けと地域・関係者向けとを分けて実施する。	A	A	A	人数制限を設けつつも、学校公開を年4回実施し、多くの保護者や地域・事業所の方に授業の様子を見てもらった。放課後デイサービスや実習先とは異なる生徒の様子を知ることができる貴重な機会であった。との感想をいただいた。 97%以上の保護者から、「学校の様子がかかった」との評価を得た。	・予備会はとても充実した内容だった。1・2年生はのびのび、生き生きと楽し心のこもった真剣な姿だった。2年生のソーランは圧巻だった。3年生は楽しんでいる姿、充実した姿が見られた。在校生からもらった魚(のオブジェ)を大切にしている姿が印象的だった。音楽部は、ダンスとパフォーマンスがよかった。職員の演奏やダンスに、3年生が歓喜の姿を見せていた。アンコールもあり、生徒も一緒に楽しんでいた。3年生の発表は落ち着いた姿で、一人一人が一生懸命にやっていた。演奏と歌で1つになり、絆が深まった。保護者はワクワク、ドキドキ、ほっとしながら満足だったのではないかと。太田高等特支の歴史と伝統を感じた。先生と生徒がともに築いてきた結果であると感じた。 ・会社では「DEI」という活動をし、誰も遠慮しない、遠慮させないような体制づくりを推進している。今日参観した予備会がまさにそれであると感じた。生徒は生き生きと活動し、皆で同じことを楽しみ、喜ぶ姿が見られた。	今後も小中学校の先生や地域・事業所の方に授業の様子を見て理解してもらえるように努め、小中学校から本校、そして社会へとつながる教育支援の流れを構築していく。また、より多くの方に本校の様子を知っていただけるよう、開催方法について検討する。
		②Webページや学校からのたより等で情報発信を行い、保護者の90%以上が満足している。	情報管理	・Webページや学年通信等で学校の様子を紹介する。 ・学校からのたよりについては、生徒の様子を的確に伝えられるよう、生徒の活動写真を多く掲載する。	A	A	A	92%以上の保護者から、本校のWebページや学校からのたより等情報発信が、学校の様子を知る上で有用であったとの評価を得た。情報管理担当者が、学校行事のみならず学年の活動や授業の様子を随時Webページに掲載したためと考える。	今後も日本語を母語としない保護者や地域の方も理解できるように、写真等を多様な情報発信を心がける。また本校の最新情報が発信できるように、組織的に取り組む。	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③「個別の教育支援計画」について、保護者の90%以上が内容に満足している。	学習指導	・保護者面談及びケース会議等において、「個別の教育支援計画」の内容について丁寧に説明し、合意形成を図る。	A	A	A	教育相談や保護者面談などを通して、本人や保護者のニーズを把握し、「個別の教育支援計画」に生かすことができた。個別面談で確認を行うことで、内容について共通理解を持つことができた。教師に対しては、次年度への引継ぎをスムーズに行えるように、年度末にかけて目標や実態などを入力していくよう周知した。	各欄について、空欄が無いように引き続き、教育相談や保護者面談を通して、本人や保護者の希望や要望を把握していく。また、入力済みの内容であってもその都度確認し、加筆修正をしていく。アンケートの内容については、卒後の一般企業や福祉施設に対して提出するため、3年次の7月の保護者会を通して、具体的に書いていただくよう丁寧に説明をしていく。	
		④交流及び共同学習について、年1回以上実施し、保護者や関係機関の90%以上が満足している。	交流教育	・学校間や地域の方々との交流を実施し、活動の様子をWebページや学年通信、保護者会、学校評議員会等で知らせる。	A	A	A	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、手指消毒やマスク着用などの感染症対策を講じた上で、地域の方や地域の高等学校との交流活動を行うことができた。キャリアパスポートや学年たより、ホームページを通して保護者に周知した。	交流活動を行う時期について、先方の都合と熱中症等の危険を考慮して日程調整を行っていく。また、参加学年については、学校行事との兼ね合い検討し、無理のない範囲で参加できるようにしていく。リモートで行う際は、通信が不安定な状況など不測の事態に対応できるように準備しておく。	
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤地域の高等学校等の求めに応じて相談・支援等を100%実施する。	コーディネーター	・相談依頼内容に応じて日程調整を速やかに行う。 ・各高等学校のニーズに沿ったアドバイスができるように、学校風土なども理解しながら柔軟な姿勢で相談に当たり、実践可能な支援方法をアドバイスする。	A	A	A	要請に対して速やかに授業観察等を行い、助言をすることができた。定時制課程や通信制課程からの要請も多くあった。定期的にケース会議を開催する高等学校もあり、出席し助言をすることができた。各高等学校において、支援が必要な生徒への対応について、助言をもとに自力で解決しようとする意識が高まってきた。	各高等学校の特別支援教育コーディネーターの意欲に左右され、こちらから訪問相談を依頼しても、断られてしまう学校もある。特別支援教育コーディネーターとの関係構築に努め、特別支援教育へのハードルを下げられるよう説明をしていきたい。	
		⑥学校参観日・相談日を中心に本校への来校者を積極的に受け入れ、来校者の90%以上が満足している。	コーディネーター	・地域の小・中・特別支援学校に対して、開催日を通ずる他、複数回参加可能なことを伝えるとともに、開催日以外にも対応できる柔軟な受け入れ態勢であるといつことも伝える。	A	A	A	学校参観日への参加者はのべ188人であった。相談日への相談者数は、のべ56人であった。来校者の90%以上が満足していると回答した。今年度も本校Webページ上で申込み状況が分かるようにしたこと、空きを確認した上で申込みしていただくことができた。また作業体験を、普通科向けと産業科向けとそれぞれ実施し、参加者からは満足したとの回答を頂戴した。	各参観日、各相談日が早い時期に定員となり、参観したい生徒保護者に迷惑をかけたところがあった。次年度は、開催日程及び内容についてさらに検討して、地域の小・中・特別支援学校に通知していきたい。参観者が見たい・聞きたい情報を効率的に提供できるように、内容を精選していきたい。	
	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦「個別の指導計画」の内容について保護者の90%以上が満足している。	学習指導	・保護者面談等で「個別の指導計画」における具体的な目標や手立て等について話し合い、共通理解を図る。	A	A	A	今年度から、保護者への提示の仕方、「保護者押印欄」を設けてファイルでやり取りするように変えた。内容については、教育相談や保護者面談などを通して、本人や保護者のニーズを把握した。また、学校生活の様子などから本人に身に付けさせた力を検討、相談し、「個別の指導計画」に生かすことができた。	・予備会を楽しく拝見した。入場時の選曲から、先生達が若い感覚を取り入れて、今の子供達に合わせて企画されているところに感心した。粘り強い取組については、考えさせられるところがある。現在、息子が週2日ほどの出勤状況である。自分自身も、粘り強く(いち)からじくりと息子と関わっていきたく感じた。	職員会議や研修等において、作成の意義や作成方法について職員の共通理解を図る。その際は記入例や参考例を提示する。個別面談を実施し、保護者の要望をくみ取りながら話し合いを行う。卒業後の生活を意識した目標設定や支援方法を策定する。また、太田ステージの評価を活用し、生徒の実態把握に努め、実態に対する適切な目標設定ができるように周知していきたい。
		⑧運営委員会、学年会等において生徒の情報交換を毎回実施し、全職員で必要な情報共有をしている。	生活指導	・いじめの早期発見・早期対応や自殺防止の観点から、職員一人一人の情報収集力、情報発信力を高めていたための校内研修等を充実させる。	A	B	A	運営委員会や職員会議、学年会等で生徒の情報交換を行い、共通理解を図った。	・LGBTQについては、いじめにつながらない指導が必要であり、とりあてていくべき事柄であると思う。	引き続き生徒の情報交換を緊密に行い、少しでも不自然さや違和感を感じたときはかかるべき組織で対応していきたい。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨生活習慣の定着を図るための家庭と学校が連携した取組に保護者の80%以上が満足している。	生活指導	・「あたりまえだけこの十ヶ条」を活用し、月別重点項目を設け保護者会等で活用する周知をするとともに、生徒の実態や社会情勢を踏まえて十ヶ条の内容を見直し、改善を図る。また内容と日頃の学習活動を効果的に連携させるよう、個々の職員の意識向上を図る。	A	B	B	年度初めに通年の目標を配付し、月初めに重点目標を配付し保護者への認知向上に努めた。また、会議室廊下に掲示し職員の意識向上を図った。	・1年間、行き届いた生徒指導を行っていた。通常の活動ができるようになり、ほとんどの行事が行えたことで、生徒も皆、明るく楽しんでいたのではないかと。 ・自転車のヘルメット着用率が100%と聞き、感心した。	配布物だけでは十分にお伝えすることが難しいこともあるので、HP等に掲載するなどの工夫が必要である。
		⑩学校いじめ防止基本方針に基づいた本校の取組に対して、保護者の90%以上が満足している。	生活指導	・生徒及び保護者に対して各相談窓口の周知を徹底するとともに、生徒の抱えるような問題も見落とすことのないよう、「生活アンケート」の内容について見直しを図る。LINEやオンラインゲームのチャット機能を利用したネット上でのいじめを防止するために、情報モラル教育の充実を図る。	A	B	B	学期毎の学校生活アンケートを実施し、生徒の内面の幅みを見逃さないように努めた。また「オンライン相談」などの相談窓口の周知を図った。	・SNSへの対応については、大事であると感じた。	アンケートや相談ボックスの活用を継続すると共に、直ぐに相談できる手段の周知を図る。また、情報モラルの学習を深めると共に、保護者へ十分に伝わるような工夫が必要である。
		⑪授業改善のための研究授業・授業研究会を年間2回以上、研修会を年間7回以上実施している。	教務企画	・研修係が中心となり、職員にとって有意義な授業研究会・研修会になるよう計画・実施する。 ・一人3回以上他の教諭の授業を参観し、参観後は、授業者と意見交換を行う。	A	A	A	予定していた校内研修を全て実施することができた。夏季研修では施設見学にも多くの教職員が参加し、生徒の進路選択に役立つ研修を行うことができた。また今年度も外部講師を招き、事例を基に具体的な生徒理解について研修を行った。計画訪問における代表授業及び初任者による研究授業には、多くの教諭が参観し授業研究会に参加することで、有意義な意見交換を行うことができた。	本校職員の自己研鑽につながるような校内研修等を計画・実施し、その成果が、生徒理解や授業実践に生かされるようにしていく。	
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が満足している。	保健指導	・毎日の健康観察及び衛生検査を実施して、生徒の健康状態の把握と管理、生活習慣の確立に努める。特に学校生活で配慮が必要な生徒は、医師の指導に基づき、保護者と連携して適切な健康管理に努める。	A	A	A	心臓疾患や代謝疾患、医ケア対象生徒については、生活管理表等に基づいて管理にあたった。特に医ケア対象生徒について保護者と連携し「個別の緊急時対応マニュアル」を策定した。	今後も医療機関や家庭と連携し、生徒が持つ基礎疾患等の管理に努めるとともに、流行性の感染症等については、常に流行状況や具体的な対応、処置方法等の情報を提供、共有し、家庭との連携を図りながら、生徒の健康や体調の管理に努めたい。	
		⑬健康診断時に疾病疑いがあり、受診を勧められた生徒に関して、保護者及び担任に、受診率(治療率)及び個別の受診状況を年3回以上報告し、保護者面談等で受診を勧めている。	保健指導	・疾病疑いのある生徒(受診勧告者)に、結果受診後速やかにその結果を通知する。 ・疾病を持つあるいは疾病疑いのある生徒(受診勧告者)の受診状況等を把握し、保護者及び担任に、「ほけんたより」や「学年たより」を活用し、受診率等を報告する。また、保護者面談等の機会に、受診や治療を個別に勧める。	A	A	A	受診勧告書や保護者面談で受診を勧めた結果、ハイリスクな疾病を持つ者は、全員が医療機関を受診し、医師の指導を受けることができた。また、ここ数年低下気味であった歯科治療受診率をはじめとする各種の受診率が、向上し回復してきた。	医師・保護者と連携しながら、引き続き疾病管理や体調管理に努めるとともに、将来につながる健康維持管理のための保健指導等を充実させたい。また、予防医学の観点から、生活習慣病の理解と予防を促すための健康教育に注力したい。特に歯科については、歯科疾患の治療を推進していくとともに、歯科衛生指導(ブラッシング指導等)をより充実させたい。	
7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭危機管理マニュアルをもとに、緊急時の対応策(避難訓練)を年3回以上実施している。	安全対策	・危機管理マニュアルの見直し、改善を図るとともに、避難訓練や職員研修の実施を年間計画の中に明確に位置付ける。	A	A	A	災害時の対応組織や避難時の応援態勢、避難経路等を見直し、それに基づき各種避難訓練を計画どおり実施することができた。また、本年度は緊急時の保護者への引き渡しマニュアルを作成し、保護者と協働し訓練を実施した。	避難訓練の実施にあたっては、訓練の内容や方法を一部変更するなどマンネリ化を防ぐとともに、実際の状況に即した訓練となるよう工夫を重ねたい。今後は避難訓練だけでなく、事前・事後指導等で活用できる各種防災教育資料等の充実も図りたい。	
		⑮危機管理に関する職員研修を年3回以上実施している。	安全対策	・普通救命講習(AEDの扱いを含む)や不審者対応等の職員研修を関係機関と連携、協力して行う。 ・危険箇所や危険状況が確認された際には、初期対応を直ちに行う。	A	A	A	緊急事態発生時の迅速な対応のため、救命講習(日本赤十字社と連携)、緊急時対応訓練(通報搬送訓練)、不審者侵入時対応訓練(太田警察署と連携)を実施した。	今後も関係諸機関との連携を図り、危機管理に関する職員研修の実施と充実を努め、生徒の安全確保及び迅速な緊急対応が図れるようにしたい。	
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑯進路学習について、進路講演会等を年5回以上実施し、保護者の90%以上が満足している。	進路対策	・進路講演会や生徒が体験的活動ができる機会を、年5回以上実施する。 ・学年主任会議で学年間の情報交換を適切に行う。	A	A	A	各種体験的な研修や進路講演会などの内容を見直し、精選することで、より充実した学習になるよう心がけた。	・3年生の就職については、内定通知が高校より遅く、本日に就職できるのか不安だった。内定の際は、企業から本人あるいは内定通知が届くと思っていたので、担当教諭から内定のコピーが手渡され戸惑った。就職に関して分からないことを学校に聞かず、不安だった。	引き続き、各種体験的な研修や進路講演会等において、生徒や保護者のニーズに合った内容にする。限りある予算の中、工夫していく。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路対策	・支援協議会に進路指導主事が出席し、地域の障害福祉サービス事業所等と情報交換ができるようにする。電話や電子メール、ファックス等にて情報収集に努める。 ・ハローワーク、労働政策課、障害者就業・生活支援センター(わーくさぽーと)と共催で企業向けの学校見学会を実施する。	A	B	B	地域の支援協議会が開催され、情報交換および収集する良い機会となった。各関係機関との連携を深め、最新の情報発信に努めた。	・卒後の訪問は有り難い。現在18名が企業に就労が決まっており、3名が未決定のこと。8月に行った合同説明会では、この会に出席したことで、保護者に迷いが生じ、他の希望も出てきたことから、決まっていた進路が白紙になったというケースもあった。開催時期や周知の方法については、今後検討していきたい。 ・ハローワークやわーくさぽーとと密に連絡を取っている。関係機関との連携を大切に、また相談体制の質があるように、対応していきたい。	各関係機関との連携を深め、情報交換や収集に努め発信し、保護者への啓発を図る。企業への訪問を行ったり、太田市障がい者雇用創出事業との連携を図りながら障がい者雇用への理解や啓発を行う。